

令和4年度
学校関係者評価 報告書



令和5年8月

学校法人岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校

I. 令和4年度 学校関係者評価について

学校法人岡山科学技術学園 岡山科学技術専門学校は、文部科学省が平成25年3月に策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校関係者評価委員会を開催し、令和4年度の学校関係者評価を実施しました。

評価にあたっては、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について協議するとともに、関係の委員の方々から貴重な御意見や御提言をいただきました。

協議を通していただきました御意見や御提言等は、大項目ごとに要約し、「令和4年度 学校関係者評価報告書」として取りまとめました。

本報告書の内容につきましては、校内の運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき改善等の具体案を作成し、次年度の学校運営等の改善や学科教育方針の見直しに活かすとともに、本校の教育理念でもあります「技術教育を通じての人間教育」をより充実させ、産業界で活躍できる有為な職業人の育成に繋げて行く所存です。

令和5年8月1日

学校法人 岡山科学技術学園
岡山科学技術専門学校
校長 大月 秀之

II. 学校関係者評価委員会名簿（敬称略）

氏名	所属	関連学科
栗田 真志	株式会社プローバ 代表取締役	映像音響学科
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部 総務課係長	電気工学科
山本 泰三	株式会社機能性食品開発研究所 農水産事業部長・総務部長	食品生命科学科
近藤 康史	株式会社両備システムズ 営業本部 公共営業統括部・文教ビジネス営業部 次長	国際情報学科
宮西 司郎	協立土建株式会社 代表取締役	建築工学科
田中 浩二	西尾レントオール株式会社 取締役営業部長	測量環境工学科
岸本 晋一	ゼノー工具株式会社 常務取締役	国際機械工学科
横田 直樹	株式会社丸文 代表取締役社長	一級自動車工学科
岡本 径	ネットトヨタ岡山株式会社 営業本部 サービス部 副課長	二級自動車工学科
齊藤 雅崇	株式会社ティーエス自動車 専務取締役	国際自動車工学科
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	全科
長門 信和	岡山科学技術専門学校 保護者会 会長	全科

Ⅲ. 大項目ごとの現状・課題と関係者評価・意見

1. 教育理念

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	▲3.1 (3.3)	88.5% (86.0)
2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	2.8 (2.9)	75.0% (78.0)
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	2.4 (2.4)	46.2% (56.0)

(2) 現状

1. 教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、全教職員達成に向け取り組んでいる。
2. 本校の教育目標は、工業系の総合専門学校として社会に貢献できる、心豊かで逞しい技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる、即戦力となる技術者の育成に努めている。
3. 職場懇談会等の理事長講話を通して全教職員に将来構想を周知している、また学科においては、学科所属の全教員の意思疎通を図り、職業実践専門課程認定学科として、3～5年後を見通した学科像を策定している。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・意見なし

(4) 考察

- ・教育理念については、一定の理解が進んできたと考えている。教育活動方針も具体的な目標を掲げて実施したい。

(5) 関係者評価・意見

- ・校外委員より、教育活動方針の重点項目である「6S管理」の位置付けについて発議し、討議がなされた。

2. 学校経営

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	2.6 (2.7)	66.7% (68.0)
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	2.6 (2.7)	60.8% (62.7)
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	▲2.5 (2.7)	52.0% (60.8)

4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	2.9 (2.9)	73.1% (74.5) ↓
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.2 (3.2)	94.2% (88.2) ↑
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.9 (2.9)	76.5% (74.5) ↑

(2) 現状

1. 本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて、経営方針等を策定している。年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知し、また職場懇談会等で適宜確認をしている。
2. 経営方針に基づき事業計画を策定している。
3. 組織図及び職務分掌に基づき、階層的に権限・義務・責任を設け、意志決定機能の明確化に努めている。
4. 人事・給与については、就業規則並びに賃金規程に従い適正に運用している。
5. 教育活動に関する情報は、教育活動方針、学校概要、教育活動方針、シラバス、進級・卒業要件、自己点検・自己評価、学校関係者評価等の情報をホームページ上で公表するとともに、学校案内やカギセンニュースを通して広く公表している。
6. 校内の全業務を管理するシステムを導入しており、今後も関係部署との情報交換を密にし、運用・利用方法の拡大・改善に向けた検討を進めていく。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・DXをさらに進め、紙媒体の使用を減らすことが必要

(4) 考察

学校経営については、社会の情勢や関係部署の総括を踏まえて運営方針を策定することを目指している。今後とも機会をとらえて情報共有に努めたい。情報システム化に関しては、今後とも継続して改善に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

- ・校内委員より LINE WORKS の導入に関わる情報共有及びペーパーレス化に加え、電子帳簿など業務の簡素化について検討中であることが報告された。
- ・外部委員より、教職員の時間外勤務の実態や残業時間の制限について、質問され討議がなされた。

3. 教育活動

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.1 (3.1)	86.5% (88.0)
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.2 (3.2)	92.3% (86.0)
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.2 (3.2)	90.4% (90.0) ↑
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.1 (3.1)	84.6% (78.4)

5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.1 (3.0)	82.7% (78.4)
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.1 (3.0)	84.6% (82.4)
7	指導力のある教員の確保に努めているか	▲2.3 (2.5)	42.3% (51.0) ↓
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	2.6 (2.6)	55.8% (56.9)
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	2.6 (2.5)	57.7% (42.9) ↑

(2) 現状

1. 教育理念に基づいた教育活動方針、学科教育方針、また教育課程編成委員会での提言も踏まえ、豊かな人間性と実践的な知識・技術が習得できる教育課程を編成している。
2. 学科ガイドブックでは育成する学生像について明確にしておき、また各科目のシラバスにおいては授業時間数や到達レベルを明示している。併せて社会のニーズに即した教育活動を推進している。
3. カリキュラムは、学科教育方針に基づき、実習を重視しつつ講義や実習が系統的・体系的に学べるよう編成されている。
4. 教育の質の向上の観点から、教員評価の一環として学生による授業アンケートを年2回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。
5. 明確に定義され、HP上に公表している。
6. 学科教育方針に基づき、年間を通して系統的、計画的に実施している。
7. 教職員の確保については、教職員としての資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた人材の確保に努力している。
8. 企業、関係団体による技術研修会や講演会を実施し、技術・技能や指導力の向上に努めている。
9. 外部講師を招聘した教員研修、ネットによる遠隔研修、公開授業等により、教職員の資質・能力の向上に努めている。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・教育課程は編成されているが、実際の運用を評価、分析し、対策を検討する必要がある。
- ・教職員の能力開発研修は頻度、対象教員数が少ない。もっと増やすべきだ。

(4) 考察

ウイズコロナの流れの中で、研修の実施が増えつつある。今後は、一層の充実を図りたい。また、技術者不足の影響もあり教員採用に関しては難しい状況が続いているが、優秀な人材の確保に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

- ・建築工学科：在学中に取得可能な資格について（宮西委員）
- ・国際機械工学科：本科におけるこれまでの変遷と現状について（藪田委員）
- ・国際情報学科：留学生に関わる学習指導及びコミュニケーション能力（岸本委員）
留学生に関わる問題点及び卒業後の動向について（近藤委員）
- ・電気通信工学科：主任を中心とした資格指導及び進路指導また、インターンシップにおける就業意識について（小上委員）
- ・食品生命科学科：卒業生の近況報告及び優秀な人材育成について（山本委員）
- ・映像音響学科：映像音響業界を取り巻く環境について（栗田委員）
- ・測量環境工学科：企業参画によるカリキュラム作成について（田中委員）
- ・一級自動車工学研究科：本科の特色及び授業の進め方について（横田委員）
- ・二級自動車工学科：人材確保に向けた取り組み及び必要教材提供について（岡本委員）
- ・国際自動車工学科：6S及び日本語能力の向上に向けた取り組み（齊藤委員）

4. 学修成果

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	就職率の向上に努めているか	3.2 (3.3)	90.4% (92.0)
2	資格取得率の向上に努めているか	3.2 (3.2)	88.5% (88.2)
3	退学率の低減に努めているか	▲2.8 (3.0)	76.9% (84.3)
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	▲2.5 (2.8)	50.0% (68.6) ↓

(2) 現状

1. 企業訪問や説明会、進路指導連絡協議会等を活用し、進路指導課と学科主任・担任が連携して学生一人ひとりの適性を生かした就職支援に努め、早期決定と内定率の向上を目指した指導に取り組んでいる。
2. 学科ごとに目指す資格を掲げ、入学時から計画的な指導を行っている。
3. 学生の日頃の様子を観察するとともに、家庭との連携を密にした指導により、退学者の低減に努めている。
4. 学生の就職指導、卒業生の支援に役立てるため、就職先の企業に対し、定期的に卒業生の状況調査を実施している。また、高校の関係者からの卒業生の情報収集にも取り組んでいる。なお、企業の方等からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・就職率向上には進路指導課からの具体的なサポートがもっと必要。
- ・卒業生の活躍把握など情報収集、学科へのフィードバックが不十分。

(4) 考察

近年、対応の難しい学生が増えているため、担任の負担が増えている。また、コロナ禍の影響もあり除籍者の多くを留学生が占めているが、一部を除き母国の家族への連絡が難しく、指導に限界を感じている。また、工業専門課程の卒業生については半年後に現状確認を、就職先の企業に対しては5年間の追跡調査を行っており、今後は学科と進路指導課の情報共有を、一層進めたい。しかしながら、他校に進学した日本語学科卒業生の就職状況については状況収集の方法がなく、十分には把握出来ていない。

(5) 関係者評価・意見

- ・意見なし

5. 学生支援

(1) 自己評価結果

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.1 (3.1)	84.6% (82.4)

2	学生相談に関する体制は整備されているか	▲2.7 (2.9)	69.2% (76.5)
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8 (2.8)	69.2% (76.5)
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.6 (2.6)	61.5% (52.0)
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.5 (2.5)	49.0% (54.0)
6	保護者と適切に連携しているか	2.8 (2.9)	69.2% (81.3) ↓
7	卒業生への支援体制はあるか	●2.4 (2.6)	48.1% (60.0)

(2) 現状

1. 進路指導課を中心に進路指導連絡協議会、進路指導の日、企業説明会等を企画し、組織的、計画的な就職支援体制が確立している。また、留学生の進路指導についても進路ガイダンスの充実に努めている。
2. 担任を中心に、日々の教育活動やSHR等を通して問題を抱える学生のシグナルをいち早くキャッチし、早期に対応できる体制を整えている。
3. 特待生制度による奨学金の給付や授業料等の分納について個別に相談に応じるなど支援を行っている。また進学、卒業を支援する新たな奨学金規定を設け支援体制の充実に努めている。令和2年度より実施されている高等教育の無償化については、支援措置対象校となっている。
4. 学生課に健康管理を担う厚生係を設け、学生の健康診断等の職務にあたっている。また、専門機関との相談体制は徐々に整ってきているが、専門医や専門機関と連携してサポートする体制については構築できていない。
5. 例年、専門学校交流スポーツ大会などのイベント参加、ボランティア活動への参加には、活動費の予算措置を講じている。
6. 電話連絡や家庭訪問等、家族の方と連携したきめ細かい指導を行っている。また、学生支援会（旧保護者会）が組織されており、役員会での意見交換をはじめ、学校行事への協力や教育備品の寄贈等、学校と連携して教育環境の整備に取り組んでいただいている。ただし留学生の家族の方との連携が十分には出来ていない。
7. 創立30周年を機に、同窓会との連携が進んでいる。今後とも卒業生相互の絆を深めるとともに、動向把握に努めてゆきたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・留学生の家族との連携はむつかしいので学校からのサポートが欲しい。
- ・学生相談は担任が行っているが、もう少し緊密に話し合うための時間的余裕が欲しい。

(4) 考察

留学生の指導に対しては改善の余地が多い。各学科と国際課および進路指導課の連携を進め、サポート体制の一層の充実を目指したい。

(5) 関係者評価・意見

- ・なし

6. 教育環境

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	2.1 (2.2)	26.9% (28.0) ↓
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	2.5 (2.6)	48.1% (56.0) ↓
3	防災に対する体制は整備されているか	2.7 (2.7)	61.5% (64.5) ↓

(2) 現状

- 施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、可能な限り整備に努めている。
- 工業専門課程の学科に対してはインターンシップを奨励しており、また企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加しているがコロナ禍の影響もあり、今年度も企業の役職員を招いた講義形式となった場合が多かった。なお、海外研修は今年度も未実施である。
- 安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。今後、さらに危機管理マニュアルの内容を充実させ、全教職員への周知を徹底し、緊急時の迅速で適切な対応に努めたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

- 設備の老朽化が進み、入れ替える必要があるものが増えてきた。
- 避難訓練の実施回数をもっと増やすべき。学生参加の訓練を行ったほうがよい。

(4) 考察

本年度予算では、実習設備等の充実を十分に行うことができていないが、優先順位を設け設備の更新や新設を進め現場に即した学習内容の充実を進めたい。また、年2回のアンケート調査による学生の要望等についても丁寧に回答し、学生の学習意欲の向上に繋げたい。これまで要望の多かったトイレの洋式化改修については、令和4年度において2号館2階の男子トイレ、2号館1階の男女トイレについて行った。防災に関しては、危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

- 意見なし

7. 学生の受け入れ募集

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	▲2.4 (2.6)	51.9% (58.8) ↓
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.6 (2.7)	59.6% (64.5)
3	学納金は妥当なものになっているか	3.0 (3.1)	90.4% (87.8)

(2) 現状

1. 広報企画課を中心に、各学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めている。また、日本語学科入学希望の留学生については意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断した適正な受け入れに努めている。
2. 教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともにホームページ上からも定期的に発信している。
3. 他の専門学校と同等であり、適正な金額である。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・学生募集の検証が必要。数値を共有し、全体で改善を図るべきだ。
- ・広報企画課と各学科がもっとコミュニケーションを取るべき。(他1件)

(4) 考察

出願者数が伸び悩んでいる。日本人、留学生を問わず、広報企画課と学科で連携した計画的・戦略的な広報活動を行い、オープンキャンパスの内容を充実して学生確保に繋げたい。特に留学生については、カギセンの特徴を生かして入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、工業専門課程への内部進学を経て就職するまでを見据えた指導・支援・対応に努めているが、コロナ禍の影響を強く感じている。

(5) 関係者評価・意見

- ・意見なし

8. 財務

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	○2.3 (2.1)	35.4% (23.3)
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.6 (2.6)	63.8% (60.5)
3	財務について会計監査が適性に行われているか	3.1 (3.1)	91.5% (83.7) ↑
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.0 (3.1)	91.5% (81.4) ↑

(2) 現状

1. 学校の中長期的経営基盤の安定化に努めているが、コロナ禍により入学者数の見通しが立ちにくい状況にあっている。特に日本人学生の安定確保に努めたい。
2. 事業計画に基づき予算・収支計画を策定し、適正に執行されている。
3. 毎年理事会において監査が行われ、適正な運用がなされている。
4. 財務状況は、理事会の監査を経た後、HP上に公表している。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・意見なし

(4) 考察

今後も学生の確保に努め、財務の健全化に寄与したい。

(5) 関係者評価・意見

- ・意見なし

9. 法令等の遵守

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.1 (3.2)	82.0% (89.8) ↓
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.1 (3.1)	88.5% (89.8)
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.0 (3.1)	86.5% (85.7)
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.4 (3.4)	100.0% (94.0)

(2) 現状

1. 法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営がなされている。
2. 個人情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。
3. 毎年度自己点検・自己評価を実施し、課題等を明らかにするとともに問題点の改善に取り組んでいる。
4. HP上に公開している。

(3) いただいた意見（抜粋）

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善を目指すとともに、今後も法令遵守に努めたい。

(5) 関係者評価・意見

- ・意見なし

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価結果

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	●2.8 (3.0)	67.3% (77.6)
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2.7 (2.6)	63.5% (55.3)
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.7 (2.8)	61.5% (66.5) ↓

(2) 現状

1. 大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を推進している。
2. 学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促している。コロナ禍のためここ数年低調であったが、活動の場が戻ってきてつつある。

3. 高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として5学科が認定を受け、また、建築士養成の公開講座も開催している。社会人の学びの場として今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) いただいた意見（抜粋）

- ・コロナ禍により社会貢献が出来ていないが、状況が落ち着けばSDGsなど様々な活動を行いたい。

(4) 考察

地域貢献活動の機会は増えつつあるので、地域・社会に求められる学校、貢献する学校となれるようボランティア活動への参加を積極的に促すとともに、学生の自主的な活動も支援したい。併せて、出前授業や地域の活性化に向けた活動への協力等を通して地域への貢献とともに、学生の成長、豊かな心の育成を図りたい。

教育訓練の受託としては、厚生労働省より専門実践教育訓練施設として5学科が認定を受けている。また、社会人も受講可能な建築士試験講座を開講している。社会人が中長期的なキャリア形成のための能力の習得を目指す、学び直しのできる教育機関としても社会に貢献していきたい。

(5) 関係者評価・意見

- ・意見なし

IV. 学校関係者評価委員会について

学校関係者評価委員会は、参加者の日程の都合等により、次の2グループに分けて開催した。本報告書は、それぞれのグループから出された意見等を集約したものである。

第1グループ 令和5年6月29日（木）15:00～16:10

出席委員：宮西 司郎 岸本 普一 近藤 康史 藪田 尊典

第2グループ 令和5年7月10日（月）15:00～17:00

出席委員：小上 敏寿 山本 泰三 栗田 真志 田中 浩二
横田 直樹 岡本 径 齊藤 雅崇 長門 信和

V. まとめ

今回、各委員からいただきました御質問については、学校長、事務局長、各学科主任が本校の現状と今後の取り組みについて説明し、御理解をいただきました。また、御意見や御提言等は、可能なところより今後の学校及び学科の教育活動に取り入れ、本校教育の一層の充実に取り組んでいく所存です。

おわりに、学校関係者評価委員会を開催するにあたり、御多用にも関わりませず御出席を賜りました委員の皆様、心から感謝申し上げます。